

平成27年6月23日(火)

老球の細道141号

東北高校バスケットボール観戦珍道中

会津バスケットボール協会 室井 富仁

いまだに後悔しているのが、新車を購入する時になぜカーナビをつけなかったかということである。カーナビになんか頼らずオレは勘(勘)ナビだ、妻と一緒に乗っている時はカーナビがあるから大丈夫だなと豪語していた。

カーナビさえあれば今回のような悲劇は起こらなかった。今回の東北高校バスケットボール選手権大会の場所を山形の県営体育館だから山形市、そしていつもの「山形市スポーツセンター」のことだろうと決めつけていた。勘ナビに頼る私はこの山形市スポーツセンターに行くことさえ過去に何度も間違っていた。今回は間違えず1回でたどりついた。が、場所を違えてしまった。山形の県営体育館が天童市にあるとは思ってもよらなかった。カーナビさえあれば……。おかげで大幅に遅れて体育館に到着。

男子の準決勝は宮城県明成高校対岩手県盛岡市立高校、もう一つは秋田県能代工業高校対山形県山形南高校。明成高はインターハイ制覇に向けて色々な戦い方を模索していた。昨年のウインターカップを2年生メンバーで優勝しているからと言って、インターハイも簡単に勝てるとは名将も考えてはいない。能代工業は佐藤信長コーチの突然の辞任(bjリーグヘッドコーチへ)により新コーチがどのような采配をするかが興味の対象だった。山形南に苦戦はするものの、一旦流れをつかんだら一気に引き離す能代の強さを見せた。

女子の決勝戦は秋田湯沢翔北高校対山形市立商業高校。新人戦では福島西高校が優勝しているので、福島西高校の決勝戦を楽しみに行ったのだが残念だった。一日も早く切り替えてインターハイに向けて再スタートしてほしい。久しぶりに全国の上位を狙えるチームなので渡邊コーチの立て直しに期待したい。

女子決勝の主審は、会津地区審判長芳賀聡氏であった。東北大会の決勝戦を会津の審判員が仕切るとは歴史的なことである。これからも彼の後姿を学びながら多くの上級審判が会津から輩出することを願う。

試合の方は1点差を争う好ゲームとなり、結局は湯沢が1点差で逆転優勝をした。3クォーターまで20点差をつけられながらもあきらめず、ゾーンプレスと3Pシュートで見事に逆転した湯沢翔北の健闘を讃えたい。バスケットボールの勝負は、ディフェンスとあきらめない気持ちが重要であることを再確認した。

男子決勝は全国大会決勝といってもいいくらいの好カード明成対能代工業。明成はイマイチペースに乗りきれなかったが、レブロン・ジェームスこと八村君のいざという時の個人技で実力差を見せつけて優勝。能代もインターハイは楽しみなチームになるだろう。

このようなハイレベルのゲームを近くで観戦できることは幸せである。会津地区から何人のコーチや選手たちが観戦に来ていたかわからないが、ハイレベルのゲームを生でたくさん見るべきである。そのためには時間とお金を惜しんではいけぬ。昔から偉い人たちは「若者を育てるには頭と腹にお金を惜しむな」と言っていた。良い経験をさせる、良いものを見せる、良いものをたくさん食べさせる。お金はたくさんかかるがそれだけの投資に見合う成長はいつか必ずおとずれる。

『感動は動かなければ見つからない、燃えなければつかめない』(J・N・フーミン)